

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
6	川崎市立藤崎小学校	上野 和美

学校教育目標	今年度の重点目標	
○すすんで学び、よく考え表現する子 ○心豊かでやさしく思いやりのある子 ○心身ともに健康でたくましい子	1. 安心して楽しく学べる学校 2. 自分も友達も大切にできる子 3. 地域と共に歩む学校 4. 働き方の改善	a. 大切な知識や技能を身につける b. 自分の考えを深め表現する c.安全な環境 d. お互いの良さを認め合う e.保護者との連携 f. 社会に開かれた学校

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1a	安心して楽しく学ぶ (大切な知識や技能を身につける) ・学習指導要領の理念に基づいた授業の実践 ・GIGA端末を効果的に利用した学びの推進 ・SDGsを視野に入れた学びの推進 ・育成する資質能力を明確にしたカリキュラムの編成 ・防災、防犯教育の充実 ・情報教育の推進	知識がつながり「わかったできた」と児童が感じられる授業をが展開できるよう、算数を軸として研究を進めた。児童一人一人が問いをもち自力思考し、対話を通して知識や技能を身につけていけるような授業が多くのクラスで行われるようになってきている。またGIGA端末の利用により児童の表現の幅が広がり、個別最適な学びが進んでいる。主体的で協働的な学びにより、すべての児童の資質能力を伸ばしていけるようさらに研究を深めていく必要がある。今後も一人一人の職員が社会情勢や教育の変革に対し高い意識をもちながら教育活動に当たることが重要であると考えている。	・単元や題材の内容や時間のまとまりを見直し、育成する資質能力を明確にした授業改善 ・何がわかり何ができるようになったのかを児童が認識し、それらを他の教科や日常生活に生かせる授業改善 ・個別最適な学びに対する支援の組織的な取り組み ・各教科の学習のねらいを効果的に達成していくため、合科的な活動も踏まえてのカリキュラムの編成 ・SDGsを軸とした、総合的な学習のカリキュラムの構築
1b	安心して楽しく学ぶ (自分の考えを深め表現する) ・協働的な学びを生み出す授業の推進 ・問題解決能力をつけるための授業の推進 ・言語の力をつけるための年間を通した取組 ・ユニバーサルデザインに基づいた学習環境と授業改善 ・互いの考えを共有するための言語能力の育成 ・見方、考え方を働かせられるような授業改善	全ての児童が、主体的に学習に取り組めるよう教室環境の整備や授業のUD化を進めた。また年間を通して読書指導、読みの指導(MIM)など言語活動の充実を図ることで児童の表現する力は徐々に付いてきている。対話を通して「わかったできた」を実感し、主体的な学びが深まるような授業改善をおこなった。児童の学びに対する意識も変化してきている。全クラスの授業が変わることを目指して来年度も取り組みたい。	・全ての児童が主体的に取り組む対話を通して「わかったできた」を実感できる授業改善 ・各教科の特性に応じた見方考え方を明確にし、それらを働かせながら学習できる授業改善 ・帯タイムを利用した言語能力を高める学習の推進 ・算数の研究を通した問題解決の力の育成と他教科への波及
1c	安心して楽しく学ぶ (安全な環境) ・感染症や熱中症等の基準の更新と共通理解 ・校舎設備、教具等の日常点検の強化 ・防災マニュアルの見直しと定期的な訓練の推進	例年よりも高温になることが多く、熱中症防止対策を講じた。特に体育の授業においては、水分補給の徹底、場合によっては中止の措置をとった。9月中は戸外でも授業はほとんど行えず、カリキュラムへの影響がでた。学校環境の点検と修繕を日常的に行った。防災・防犯訓練を計画的に実行した。発災時刻や天候によって対応は変わる。想定を細分化し安全対策をとることが必要である。	・感染症、熱中症に対する予防措置の強化 ・体育のカリキュラムの再編成(9月は保健体育等) ・危険箇所等のチェック、防災体制の強化 ・災害発生時刻ごとの防災対策の見直し
2d	自分も友達も大切に (お互いの良さを認め合う) ・いじめ基本方針に沿った教育活動の実践 ・LGBTQに対応した学習プラン等人権教育の推進 ・共生共育、効果測定、学校生活アンケートの推進 ・SOSの出し方についての指導の推進 ・長期不登校を未然に防ぐための方策の推進	アンケートや効果測定などの、児童理解に努めることができた。いじめの未然対策等後手になった事案もあり、共通の認識で対応する必要性を感じた。LGBTQに対応した学習プラン(Fプラン)を構築し全学年で授業を行った。学習効果など継続して見ていく必要がある。不登対策として、支援教育コーディネーターを中心とした教育相談室の活用など、環境面の整備により登校につながる児童が増えてきている。	・いじめ基本方針の見直しと共通理解 ・子どもの権利条約の共通理解 ・Fプランの改善と児童の変容の見取り ・SOSの出し方や共生*共育など人権意識を高める ・不登校対策としてより効果的な教育相談室の活用の推進

2d	自分も友達も大切にする (お互いの良さを認め合う)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主役の特別活動の推進 ・情操を育むための異学年交流の推進 ・個別支援級の教育活動の充実 ・外国につながる児童に対しての支援の充実 	特別活動の校内研究が結実し、子供たちが主体となる活動が年間を通して行うことができた。学級、学年の枠をこえたつながりがあることは、藤崎小の大きな強みである。今後も他者の思いを受け止める心情を育成する手だてを講じていきたい。個別支援級では、個に応じた支援を行えるような環境を整えてきた。人的な不足を生じた時期はあったが、チームとして困難を乗り越えた。国際級を中心として、日本語の取得に対しての支援をきめ細やかに行った。言語だけではなく、日本の文化や母国の文化など、相互理解につながる教育活動を推進できたことで、多くの児童が安心して学ぶことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で児童が主体的に取り組める活動の推進 ・学校・学年目標の意識づけ目標達成への手だて ・全職員で児童指導のあり方の共有と、統一した基準での指導 ・個別支援級と交流級の連携の強化 ・国際級を中心とした効果的な学習・生活支援と学級担任との連携の強化
3e	地域とともに歩む (保護者との連携)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育方針の提示 ・きめ細やかな情報の発信 ・教育相談体制の強化 ・学校教育アンケートの実施とフィードバック 	教育方針など、学校便り等で年間を通して発信した。COが中心となり、支援を要する児童について共通理解を図り都度対応することができた。また、年間3回の個人面談を設定することで、情報共有の機会が増えた。様々な理由により、学校と情報共有が難しい保護者に対してはより効果的な働きかけを工夫していく必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な学校公開と評価アンケート ・WEBを使った迅速で効果的な情報発信 ・COを中心にした教育相談の強化 ・ICTを活用した情報発信や共有
3f	地域とともに歩む (社会に開かれた学校)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育会議、地域推進会議等への参画 ・地域教材や人材のカリキュラムへの取り込み ・PDCAサイクルの確立と発信 ・学校教育推進会議を中心としたコミュニティスクールの準備 	学校便りやHP等を使った情報の発信が、教育活動を理解してもらう一助となった。また、地域とともに進める学習が再開し、多くの方々の協力もと学習を進めることができた。また学校評価アンケートをもとにPDCAサイクルに基づいた改善ができた。SDGsを核として総合的な学習を進めてきた結果、地域教材が減少傾向にある。「フジサキプライド」と称し、学校や地域に親しみがもてるよう働きかけてきた。また地域のイベントなども積極的に子供たちに知らせ参加を促している。参加率はまだまだであるが、引き続き地域との連携を図っていきたい。みんなの校庭プロジェクトでは児童会を中心にルール作りが	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策のもと地域人材の積極的な活用 ・PDCAに基づく教育活動の見直し ・地域活動への積極的な参画 ・学校の特色としての地域教材や人材の活用をカリキュラムに位置づけていく ・フジサキプライドの意識を高め、川崎市市政100周年、藤崎小学校創立70周年につなげる
4	働き方の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・校務組織の見直し等による効率化 ・服務に対する意識の変革 	学校組織の見直しやオンライン会議による効率化を図ることができた。働き方に対する意識は変わってきてはいるが仕事量と勤務時間のバランスの悪さは否めない。教育公務員としての規範については折に触れ伝えている。各職員とも順守して服務していた。	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の偏りを生じさせない校務分掌の明確化 ・カリキュラムマネジメントによる教科指導の効率化 ・慣例化してる事項や行事の見直し ・公務員としての心構えの徹底

*

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○保護者アンケートより</p> <p>児童の学習の様子を保護者に見ていただく機会が増え、教育活動に対して肯定的な回答が増えた。楽しく学校に通っていると回答された方が92パーセントとなっていたが、7パーセントの保護者のお方はそう感じていない。100パーセントを目指し今後も充実した教育活動を展開していくことが大切である。防犯、防災など安全教育に対しても高評価をいただくことができた。開かれた学校を目指す取組はコロナの二類移行後推進しているが、13パーセントのマイナス評価であった。またGIGA端末の扱いや児童指導、学習指導についての貴重なご意見が寄せられた。このことを真摯に受け止め次年度に生かしていきたい。</p> <p>○学校教育推進会議より</p> <p>校舎が明るくなり、児童は大変落ち着いて学習に臨んでいる。防災対策など、実際の訓練を通して、児童に根付いていることがわかった。i学校評価アンケートについては推移をしっかりと見極め、対策を立てて行く必要がある。町内会の組織率も五割。学校を中心として地域の連携をとっていく必要がある。近隣の保育園との避難訓練や年長児の交流などの連携について大変効果的であった。また、小学校の教育方針が保育園のものと同様で連続していることがよく理解できた。今後も交流を続けていきたい。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症が2類になったことを受け、学校目標や重点目標を、児童の実態や変化していく時代に即したものにすべく、検証を重ねた1年であった。学習指導要領に記されている資質能力について算数科の研究を通し研究を重ねた。また、児童全員が学習に主体的に取り組めるよう授業のユニバーサルデザインに取り組んだ。GIGA端末の活用や対話的な学びなど、授業は確実に変化している。予測困難な時代を生きていく児童に必要な生きる力をこれからも育成していきたい。そのためにも、新しい形の教育課程を構築していくことが大切であると考え。学力状況調査の結果を真摯に受け止め、児童が確かな学力を身に付けていくための方策を早急にとらなくてはならないと感じている。毎日の授業の質を上げていくことを来年度の重点の一つとしていきたい。</p> <p>児童の学校生活が安心してできるものとなるよう、アンケートなどを通して一人一人の声に耳を傾け、必要な場合は校内支援委員会で解決策等を話し合ってきた。児童アンケートでクラスにいじめがあるとした児童が一定数いる事実を真摯に受け止め、今後も人権意識を高め「いじめは絶対に許さない」という姿勢を貫いていきたい。その基盤となるべき人権教育は不可欠であると考えている。LGBTQに関する内容を含め、発達段階を考慮した学習プラン(Fプラン)をさらに進化させていきたい。不登校の児童に対しての取り組みも、相談室の効果的な活用も含め引き続き取り組んでいきたい。</p> <p>防災対策は様々な想定の下行っていく必要を強く感じる。学校は地震発生時の避難所になっている。津波に対する垂直避難訓練など、地域との連携も図る必要性を感じる。令和7年度には創立70周年を迎える。また、コミュニティスクールも始まる。今まで以上に地域とのつながりを強固なものにし、開かれた学校を目指していきたい。</p>